

人権学習展開例（第1学年）



主題名

思いやり

教材名

なんて いったら いいのかな

人権学習の視点

普遍的な視点「コミュニケーション能力」

主題・教材について

子どもたちは、家庭・学校・地域社会で、家族をはじめとして、多くの人と交わり成長していく。社会生活を豊かにするために身に付けておきたい基本的なスキルは、自分の気持ちをはっきりと、しかも、相手への思いやりの気持ちを忘れずに表現する力である。相手を思いやる言い方が自然にできるということは、社会性を培うことやよりよい人間関係を結んでいくという観点からも大切である。


日常生活の中では、ちょっとした気持ちの行き違いや言い方によってさまざまなトラブルが生じたりすることがよくある。

そこで、ブランコで遊んでいる一場面を想定して、相手の立場に立った言い方を考えさせたい。そして、相手の気持ちを考え、思いやりをもって行動することの大切さに気付かせたい。

ねらい

相手の立場に立ち、思いやりをもった言動をすることの大切さに気付き、仲良くしていこうとする心情を養う。

本時の展開

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入	○遊びのなかで、自分の思いが通じなかった経験を思い出させる。	一斉	○遊んでいていやだったことについて発表する。	○遊びの経験から自由に考えさせる。	
	○本時の学習課題を知らせる。	一斉	○本時の学習課題を知る。		
友達と仲良くするためには？					
展開	○資料①②の絵を見て、ブランコにのりたいたいという気持ちに気付かせる。	一斉	○資料①②の絵を見て、ブランコを代わりにしてくれるように声をかけている子どもの気持ちを考え発表する。	○自分の体験と重ね合わせ、その時の気持ちを思い出させる。	資料 「なんて いったら いいのかな」
	○ブランコを代わるのがいやで断っている言い方と、気持ちよく代わっている言い方を考えさせる。	一斉	○資料③⑤の絵を見て、男の子がなんと言ったのかを考え、発表させる。 ○友達と仲良くするための言い方について知る。	○資料④⑥の女の子の絵の表情から言い方を考えさせる。 ○それぞれの役にならせて、発表させてもよい。	
まとめ	○友達と仲良くするためには、相手の気持ちを考えた言い方が大切であることを理解させる。	一斉	○教師の話を書く。	○日常の遊びのなかでも学習したことが生かせるようにしていく。	

評価

相手の立場に立ち、思いやりをもった言動をすることの大切さに気付き、仲良くしていこうとする心情を養うことができたか。

